Higashinari
ひがしなりだより
防災特集 保存版
2023年(令和5年)

防災特集号のおもな記事

- “もしものとき”にあわてないために …… 5面
- 避難所の確認を～防災マップ～ …… 6～7面
- 自宅避難できるように備えよう！ …… 8面

日本全国で災害が頻発しており、大阪でも平成30年6月の大阪北部地震、9月の台風21号などにより甚大な被害を受けました。

災害発生直後の混乱の中、大人数が集まる避難所へ移動することで、感染症などにより自らの健康を脅かしてしまう恐れがあることから、必ずしも避難所へ避難することが正しい選択とは限りません。

“もしも”が起こる前に、どのような場合にどこへ避難するか、たとえば避難所だけではなく自宅や親せき宅などへの**分散避難**ができるよう、適切な避難行動を考えておくことが大切です。

災害対策 「もしものとき」にあわてないために

災害が起こった時、適切な行動をとるためにはあらかじめ避難行動を考えておくことが大切です。

STEP1 お住まいの地域が、どのような災害の危険性があるかを確認！

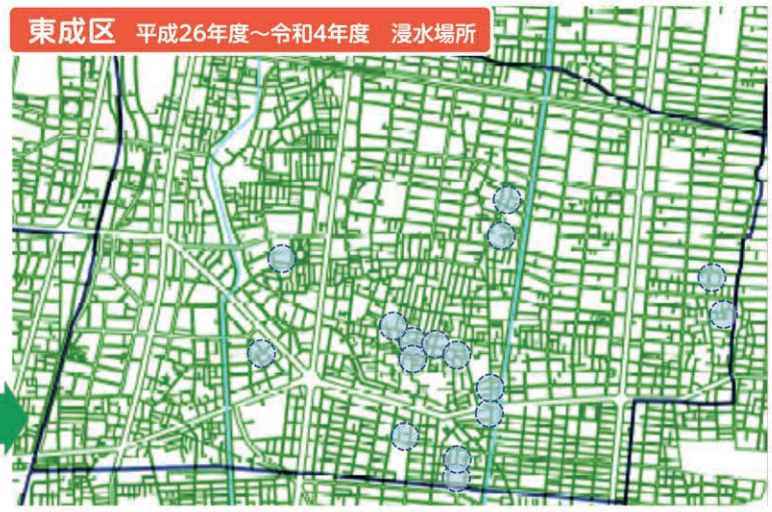
東成区は、平坦な低地が多く、自然排水が困難な浸水しやすい地形となっています。浸水被害を軽減するために、ハザードマップや浸水実績図でお住まいの地域がどの程度浸水するおそれがあるかを確認しましょう。また、地震、河川氾濫等でどのような危険性があるかを確認しましょう。

※側溝などが落ち葉やごみ等でふさがって浸水する場合もありますので、家の周りを点検しましょう。

浸水実績図　ハザードマップ

《浸水概要》 =おおよその浸水箇所

東成区　平成26年度～令和4年度　浸水場所



STEP2 災害ごとに避難のタイミングと避難先を確認！

《水害時》河川等氾濫など水害への備え 避難フロー

ご自宅の周辺の浸水の深さを浸水想定図（水害ハザードマップ）からご確認ください。

スタート

浸水想定図でご自宅周辺は着色されていますか？
- いいえ → 避難の必要はありません。⚠あくまで想定ですので、日ごろの準備は必要です。
- はい → 老朽化した木造家屋ですか？
  - はい → **避難が必要です!!** 堤防が決壊すると家屋が倒壊・流出するおそれがあります。
  - いいえ → 浸水の深さは？

浸水の深さは？
- 5.0m以上
- 3.0m～5.0m未満
- 0.5m～3.0m未満
- 0.5m未満

お住まいの階は？（戸建て住宅の場合は最上階）
- 3階以上 → ご自宅の安全な場所で待機することが可能です。
- 2階以下 → **避難が必要です!!**
- 2階以上 → ご自宅の安全な場所で待機することが可能です。
- 1階 → **避難が必要です!!**

ご自宅の安全な場所で待機することが可能です。

浸水しない安全な場所へ

- 原則 浸水が始まる前に早めの避難!!
  - 避難先の優先順位1 自宅・親戚宅・知人宅・職場など
  - 避難先の優先順位2 最寄りの避難所
- 逃げ遅れたら その場そのときで命を守れる場所へ
  - 避難先の優先順位3 ・最寄りの水害時（津波）避難ビル ・高い建物や高い場所

⚠上記はあくまで目安です。建物により居室の床の高さが異なりますので、上記図によらない場合があります。また、老朽化した木造家屋の場合は家屋倒壊等氾濫想定区域外であっても家屋の倒壊・流出の可能性があります。

《地震発生時》避難の考え方

災害が発生しても**原則自宅避難！**

ただし次の場合は避難！
- 老朽木造家屋
- 家屋倒壊・家具転倒等により自宅避難が困難

避難先
- 親戚宅・知人宅・職場など（被害を受けていない場所）
- 最寄りの災害時避難所

マイタイムラインの様式や記入方法などの詳細は大阪市のホームページをご覧ください

STEP3 掲載している情報やマイタイムラインを活用し、日ごろからの備えを確認！

マイタイムラインとは 大雨や台風などの風水害に備えて、一人ひとりの家族や生活の状況に合わせた避難行動、つまり「自分の逃げ方」を考えておくものです。

大阪市 マイタイムライン 検索

■広告の内容等、掲載された広告に関する一切の責任は広告主に帰属します。また、大阪市が推奨等するものではありません。